

明日の淡海

Vol.20
2012.3

自然と人の共生をめざして

発行
財団法人 淡海環境保全財団

〒520-0807 大津市松本1丁目2番1号
大津合同庁舎内
TEL.077-524-7168 FAX.077-524-7178
E-mail: info@ohmi.or.jp
URL: http://www.ohmi.or.jp

Contents

- 滋賀県の再生可能エネルギーの現状 2
- 省エネ診断 4
- 家庭でできる節電アクション 6
- 財団事業紹介 8
- 水草有効利用 10



財団法人 淡海環境保全財団

滋賀県の再生可能エネルギーの現状

滋賀県地域エネルギー振興室

東日本大震災や福島原子力発電所の事故をきっかけに、エネルギーに関する県民の皆さんの関心や当事者意識が高まっています。再生可能エネルギーの導入を進めることは、化石燃料（有限資源）への依存の低減や低炭素社会づくり、地産地消による地域経済の活性化や関連産業の振興と併せて災害時の対応や備えといった観点からも大変重要です。もともと滋賀県は自然と暮らしの距離が、物理的にも、社会的にも、また精神的にも近く、その中で「もったいない」の暮らしが生まれてきました。エネルギーについても、滋賀が持つ「近い自然」を生かし、いわば「近いエネルギー」である「再生可能エネルギー」の導入を積極的に進めていくことが、ますます必要になってきています。

例えば、滋賀県では、早くから太陽光発電設備の導入に力を入れてきましたが、県民の皆さんの高い環境問題への意識もあって、個人住宅用では、2009年度でみると、比較的、日照時間に恵ま

れた九州地方などに次いで、全国第9位の導入率となっています。また、全国に先駆けて市民共同発電の取組も進められてきました。さらに、事業所や倉庫の屋根を活用した比較的大規模な太陽光発電設備の導入も進んでおり、最近では3000〜5000kW規模の設備が導入されています。

また、食用油の原料となる菜の花を栽培し、その油を食用に利用した後、バイオディーゼル燃料として利用することで、バイオマス利用による温暖化対策だけでなく、農業を起点とする地域内資源循環、観光資源や環境学習の素材に活用する「菜の花エコプロジェクト」も県民やNPOとの協働で進められてきました。この地域モデルは東近江市を発祥の地として全国に広がっています。

ただ、再生可能エネルギーの導入量を県のエネルギー消費量との比較でみると1%に満たないのが現状です。前述の比較的導入が進んでいると考えられる個人住宅用太陽光発電設備でも全住

宅戸数に対する割合は3.9%であり、一層の導入促進が必要です。

一方で、滋賀県では、充実した高速交通網や国際港湾、空港への良好なアクセスなどの優位性を背景に企業立地が進んできました。とりわけ、太陽電池やリチウム電池といったエネルギー関連産業が集積しており、平成23年10月時点で58企業の立地があります。こうした強みをさらに高めるため、滋賀県では工業技術センターを「電池産業支援拠点」と位置づけ、電池や関連部材の評価に必要な試験分析機器を整備するとともに、技術相談や共同研究、専門家派遣など積極的な支援を展開しています。

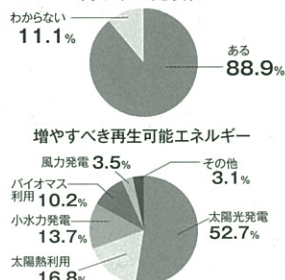
このような状況を踏まえ、平成24年度には、再生可能エネルギーの導入と、関連産業の振興、研究開発の促進を柱とした、再生可能エネルギーの振興戦略プ

ランを策定することとしています。併せて具体的な推進策として、既設住宅への太陽光発電の導入を重点的に取り組むほか、地域や事業所への再生可能エネルギーの導入にも幅広く支援してまいります。産業振興の面では、引き続き、再生可能エネルギーの不安定性を緩和するための電池産業に関する部材の開発支援や、地産地消型のスマートグリッドシステムの研究開発に取り組むなど、積極的に再生可能エネルギーの推進を図っていきます。

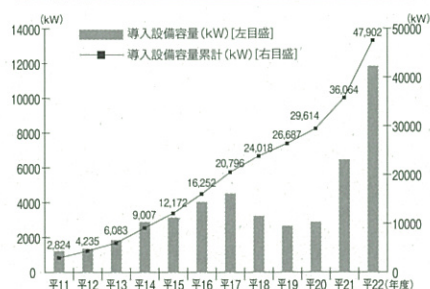
振興戦略プランの策定にあたっては、県民や企業の皆さんの意見をしっかりと伺いながら進めてまいります。ご意見等がございましたら県庁地域エネルギー振興室までよろしく願います。

TEL077(528)3721
FAX077(528)4870
Email ta0001@pref.shiga.lg.jp

再生可能エネルギーの供給割合を
高めていく必要性

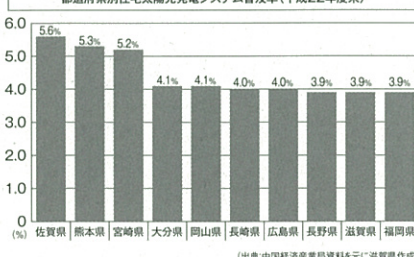


(出典:平成23年度滋賀県実施県政モニターアンケート)



(出典:JPEC住宅用太陽光発電補助金交付決定件数データ等を元に滋賀県作成)

都道府県別住宅太陽光発電システム普及率(平成22年度末)



(出典:中国経済産業局資料を元に滋賀県作成)

平成24年度

エネルギー関連予算

主な施策

(平成24年度)

(※体系や施策は振興戦略においてさらに検討)

再生可能エネルギーの戦略的な振興

■再生可能エネルギー振興戦略検討事業

再生可能エネルギーの導入や関連産業の振興を図るため、再生可能エネルギー振興戦略プラン(仮称)の策定に向けた検討を行う。

地域エネルギー振興室
【8,134千円】

■地域エネルギーに関する研究事業

県内でのエネルギー安定供給に向け、再生可能エネルギーを除く、天然ガス火力発電や大規模水力発電等の県内立地の可能性とともに、様々なエネルギーの既存システムへの接続の在り方を調査・研究する。

企画調整課
【2,889千円】

再生可能エネルギーの導入推進

事業所における導入

■民間事業者節電・省エネ推進事業

中小企業等に対して、省エネ診断の支援や省エネ設備整備へ補助を行うことにより、節電・省エネ行動を支援する。

地域エネルギー振興室
【34,700千円】

■中小企業振興資金貸付金(政策推進資金省エネ・再生可能エネルギー枠)
省エネや再生可能エネルギーの導入等に取り組む中小企業等が行う設備投資に対して、必要な資金を貸し付ける。

商工政策課
【220,000千円】

家庭における導入

■個人用既築住宅太陽光発電システム設置推進事業

個人用既築住宅への太陽光発電設置に対して支援する。

温暖化対策課
【100,600千円】

地域における導入

■公共的施設等再生可能エネルギー導入推進事業

県内の事業者・団体が防災拠点となる県内の施設に太陽光等の再生可能エネルギーシステムを設置する事業に対して支援する。

温暖化対策課
【22,500千円】

■農村資源の活用による「近いエネルギー」実証調査事業

農村地域に存在する未利用の再生可能エネルギーを活用することにより、農村地域でのスマートビレッジを構築し、農村の活性化を図る仕組みを検討する。

耕地課
【5,900千円】

■農村地域再生可能エネルギー活用可能地点調査事業

農村地域に存在する未利用の再生可能エネルギーを活用し、農村地域でのスマートビレッジを構築するための具体的な施設設置可能地点情報などを収集し、データベースを作成する。

耕地課
【11,834千円】

エネルギー関連産業の振興・研究開発

■電池産業支援拠点形成事業

県内企業が電池産業での開発競争に打ち勝ち、県経済の牽引を担う集積産業として存続するため、電池産業に特化した評価体制の整備等を行う。

新産業振興課
【29,069千円】

■新技術創出イノベーション活性化推進事業

大学シーズの発掘および企業の開発ニーズの収集を行い、産学官の連携によるプロジェクトの構築に取り組むことで、外部競争的資金を活用した研究開発を推進し、新技術の創出による県内産業の振興を図る。

新産業振興課
【5,400千円】

■低炭素化技術開発・実証化補助事業

エコ・エコノミープロジェクト参加事業者の低炭素化技術の開発を促進するため、県内の対象中小企業者等が行う新製品、新技術の開発や実証化試験に必要な経費の一部を補助する。

新産業振興課
【25,000千円】

■環境エネルギー部材企業連携支援事業

環境・エネルギー分野における企業グループの構築の取組を支援し、県内中小企業の当該分野への参入を促進する。

新産業振興課
【8,600千円】

省エネ診断

イベント 診断

商業施設やイベントで診断を実施しました。
ご家族おそろいで診断を受けていただいたり、
多くの来場者様で賑わいました。

イオンモール草津



ご家族お揃いで、診断をお受けいただき、お家に帰られてからも、家族の共通の話題として盛り上げられるケースもお聞きました。省エネ診断を通じて、家族の絆が深くなることも素敵ですね。

甲賀エコフェスタ



多くの方に受診いただきました。11名の診断員が、総がかりの診断で、大盛況でした。子どもたちは、啓発コーナーでの実験を楽しみ、省エネについて学んでいました。

企業研修 診断

企業の従業員対象の研修として実施されました。日頃から、社内で環境に対して積極的に取り組まれている従業員の皆様も高い省エネ意識を持たれていました。

株式会社 平和堂 様



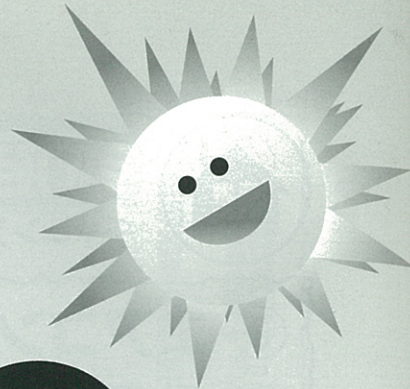
大きな会場で、総勢20名の方に受診いただきました。日頃から、社員の皆さんへの環境教育を徹底されているようで、どなたも関心が高く、ご家庭でもいろいろ工夫されていると感じました。

株式会社 京セラ 滋賀蒲生工場 様



梅工場長はじめ、6名の従業員の皆様に診断を受けていただきました。診断員と会話をしている中で、個々の家庭でも頑張ろうという気持ちを持っていただけたように思えました。職場の中での省エネ意識をご家庭でも持っていただけそうです。

東日本の大震災による原子力発電所の事故以来、省エネ・節電が課題となり、「私たちにできることはないか。具体的に何をすればよいか。」と皆様からご要望があり、滋賀県内において、190件(家庭訪問を除く)の省エネ診断を実施させていただきました。診断を受けていただいた方は皆様、非常に熱心なアドバイスに耳を傾けてくださいました。特に、今年度はイベントで



行政研修 診断

行政職員に対しての研修として
実施されました。行政の職員さんに
受診いただくことにより、
一般市民の皆様にも体験をお話して
勧めていただけるようになりました。

の ご紹介

の診断をはじめとして、県や市の職員の皆様、企業の従業員の皆様にも診断を受けていただく機会を持つことができました。省エネ意識を持っていただけたことが、仕事においても役立っているとのこと、今後も家庭訪問の外、職場での診断も推進していきたいと考えています。

10/27

米原市役所山東町支所
米原市職員

12/12



湖東総合環境事務所 県職員

12/13



東近江総合環境事務所
県職員

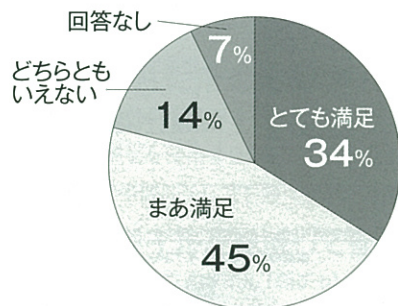
12/14



大津合同庁舎 県職員

省エネ診断満足度調査

省エネ診断についての総合的な満足度についてアンケートを実施しました。
(省エネ診断全体に対して申し込みプロセス等の手続きを含む)



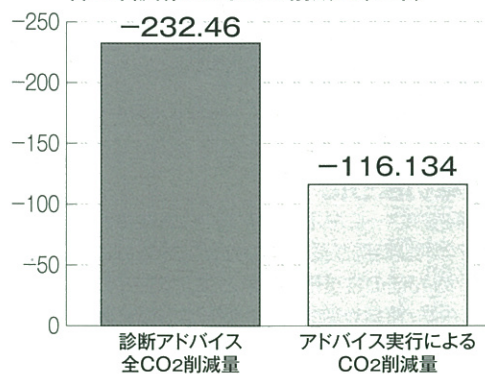
省エネ診断について、満足度調査を実施したところ、約8割の方に、とても満足、まあ満足と答えていただきました。

受けてよかったという声をたくさんいただくとともに、省エネ診断事業が、皆様の省エネへの実践への後押しになったと認識できました。

今後も省エネ診断を継続し、少しでも省エネなライフスタイルにつなげていただければと、考えております。

受診家庭におけるCO₂排出削減量のとりまとめ

省エネ診断によるCO₂削減量(t/年)



3か月～1か月後の受診家庭におけるCO₂排出削減量調査の結果、232.46t/年CO₂排出削減アドバイスを実施した結果、116.134t/年CO₂排出削減の成果がありました。

診断を受けていただき、排出削減行動に結びつけていただけたことが、データからもよくわかりました。

省エネ診断で、お得にエコしましょう！

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター(淡海環境保全財団内)

〒520-0807 大津市松本1-2-1 TEL:077-524-7168 FAX:077-524-7178

E-mail: ondanka@ohmi.or.jp 担当 来田

問い合わせ先



家庭でできる 節電アクション

チャレンジ25キャンペーンより

③ エアコンで節電!

○カーテンで窓からの熱の出入りを防ごう

外出時は、昼間でもカーテンを閉めると効果的です。夏は日照を遮るほか、冷房の冷気が逃げるのを防ぎ、冬は室内の暖気を閉じ込め、外気が入るのを防ぎます。厚手のカーテンや床まで届く長いカーテンの他、断熱シートなどを使うことをおすすめします。



○フィルターの掃除はこまめに

2週間に一度は、フィルターの掃除をしましょう。フィルターが目詰まりしているエアコンでは冷暖房の効果が下がり、無駄な電気を使います。冷房時で約4%、暖房時で約6%の消費電力の削減になります。



○室外機の周りに物を置かない

室外機の吹出口に物を置くと、冷暖房の効果が下がります。室外機は風通しのいいところに設置して、周囲はきちんと整理整頓しましょう。



○扇風機やサーキュレーターを併用して風向きを上手に調整
扇風機やサーキュレーターを併用すれば、夏は風が体にあたると涼しく感じ、逆に冬は暖まった空気を循環させることができます。

○室内温度は適温に保つ

夏の冷房時の室温は28℃を目安に、冬の暖房時の室温は20℃を目安にしましょう。夏の冷房時の温度設定を1℃高くすると約13% (約70W) の消費電力の削減になり、冬の暖房時の温度設定を1℃低くすると約10%の消費電力の削減になります。

④ 冷蔵庫で節電

○扉の開閉時間を短く、詰め込む量も考えて節電!

扉の開閉時間を短く、詰め込む量も考えて節電! 開いている時間を短く、余分な開閉はしないように開閉が多いと冷気が逃げてしまいます。冷蔵庫と冷凍室のドアの開閉回数がそれぞれ50回・16回の場合は、25回・8回の場合にくらべて消費電力量が約6%増加してしまうことも。また、設定温度はできるだけ夏は「中」、冬は「弱」に設定しましょう。

○物を詰め込みすぎないように

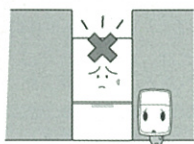
冷気の流れが悪くなり、冷蔵庫内が均一に冷えなくなります。また庫内の見渡しが悪くなるため、ドアの開閉時間が長くなる原因に。冷蔵庫の中を整理してみましょう。すいぶん前の食べ残しや常温保存できるものが入っていないかチェック。缶詰、瓶詰や調味料は未開封なら冷蔵庫に入れないようにしましょう。

○熱いものは冷ましてから入れよう

麦茶やカレーなど、熱いものを冷まさずにそのまま入れると庫内温度が上昇して周囲の温度も上げてしまいます。再度、庫内を冷やすための余分なエネルギーがかかります。

○壁から適切な間隔で設置しよう

冷蔵庫の周囲が壁などに接していると効率よく放熱できません。冷蔵庫の周囲には5cm以上の隙間を空けましょう。



○傷んだパッキンは取り替えよう

傷んでいる隙間から冷気が漏れて電気のムダ使いになります。名刺などをはさんでズリ落ちるようだったら、パッキンを取り換えましょう。

① こまめにスイッチオフ!

○エアコン…冷房・暖房は必要な時だけつけよう

タイマーを上手に使うなど、必要な場所で必要な時だけ使いましょう。外出する場合は直前でなく、早めにスイッチを切るようにしましょう。また、長時間つかわない時はプラグを抜きましょう。



○照明…必要のない灯りは、こまめに消す

人のいない部屋や廊下はこまめに消灯しましょう。また、照明の間引きや照度の調整を行って、必要最小限の灯かりを心がけましょう。

○テレビ…見ないテレビはこまめに消す

テレビを見ていないときはこまめに消しましょう。リモコン待ち状態でもエネルギーを消費しているので、消す時は主電源から。旅行など、長期不在の時はプラグを抜くようにしましょう。



○パソコン…パソコンを使わない時は電源OFF

パソコンを使わないときは、必ず電源をオフにしましょう。また、長時間使わない時にはコンセントからプラグを抜けば待機電力も減らすことができ、より節電です。

電源オプションを見直す…電源オプションを上手に設定するだけで節電につながります。例えば、「モニター電源をOFF」から「システムスタンバイ」に設定を変えた場合1年間で12.57kWhの消費電力を削減できます(デスクトップ型パソコンの場合)。



② 待機電力を削減

使用していない場合にも電力が消費される待機電力を削減!

電化製品の節電を考える時、使用していない場合にも電力が消費されてしまう「待機時の消費電力」。

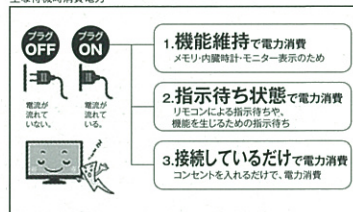
それを、いかにして減らしていくのかも重要な節電対策です。

年間を通じて家庭で消費される電力量を見ると、待機時消費電力は約6%を占めます。なんとこれは、テレビの消費電力量とほぼ同じ割合にあたります。

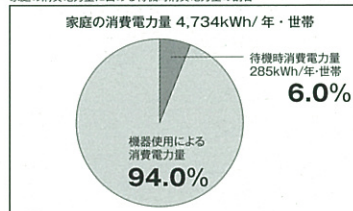
待機時消費電力を減らすための便利な機能や機器もあります。

プラグを抜くことで設定に影響が出てしまうビデオデッキなどでは、「表示OFF機能」などを上手に使って消費電力を減らしましょう。

主な待機時消費電力

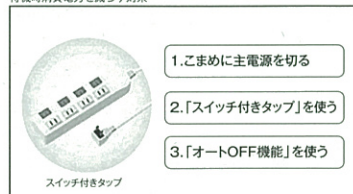


家庭の消費電力量に占める待機時消費電力量の割合



出典:省エネルギーセンター「平成20年度待機時消費電力調査報告書」

待機時消費電力を減らす対策



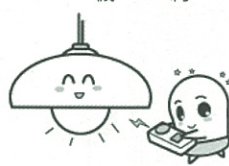
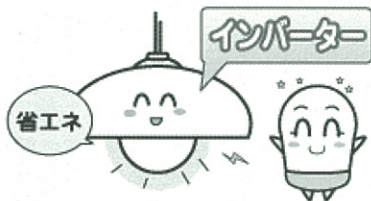
⑤ 照明で節電

○照明器具の掃除で明るさをアップ
ランプやかさが汚れると、明るさは極端に低下します。ダイングキッチンなどの汚れやすい場所にはこまめにお手入れしましょう。

○点灯時間を短くしよう
必要のないあかりはこまめに消しましょう。長時間部屋を空けるときは消した方が経済的です。蛍光灯ランプは極端に頻繁に点滅させることはランプの寿命が縮むので注意しましょう。

○待機消費電力を削減しよう
リモコン機能（点灯・消光・調光など）を使用中は約1Wの電気を消費しています。照明のスイッチの電源を切る習慣をつけて、待機消費電力を削減しましょう。

○省エネ型の照明器具に買換えよう
買換えは、インバーター式器具がおすすです。インバーターとは周波数変換機のこと。家庭に届く電気の周波数を目的に合わせて変換するものです。ON・OFFだけでなく明るさ調節もできるから、従来の器具に比べて省エネ効果に優れています。また、白熱電球を利用している場合は、なるべく消費電力の少ない、電球型蛍光灯やLED電球に買換えましょう。



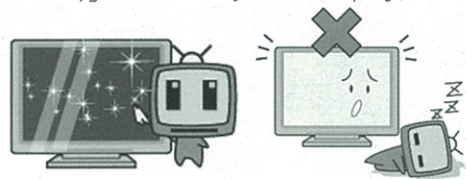
⑥ テレビで節電

○テレビを見ないときは消そう
■消すときは主電源をOFFに
リモコン待ち状態でもエネルギーを消費しているの、主電源で消しましょう。旅行など長期不在の時はプラグを抜きましょう。

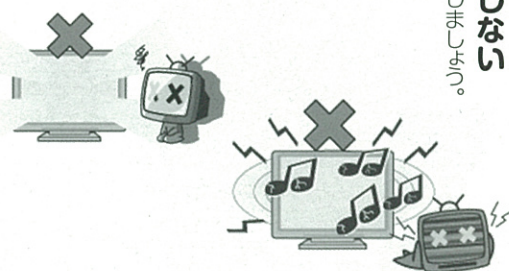
■ゲームが終わったらテレビもOFFに
テレビゲーム機の電源を消した後は、忘れずにテレビの電源も消しましょう。

○画面を掃除しよう
テレビの画面は静電気ではこりがつきやすく汚れやすいもの。週間に一度くらい乾いた布でふきましょう。

○音量は不必要に大きくしない
必要以上に音を大きくしないようにしましょう。



○画面は明るすぎないようしよう
液晶テレビ、PDP型テレビは、画面モードを省エネモードにしよう。



⑦ その他節電

○台所で節電!

炊飯器...●炊飯器の保温は控えましょう。

●ご飯は保温よりレンジであたためましょう。

電気ポット...●電気ポットの保温を控えましょう。

食器洗浄機...●汚れを拭き取った上で節約モードに切り替えましょう。

乾燥機能はできるだけ控えましょう。



○トイレで節電!

電気便座...●できるだけ温水洗浄便座の使用を控えましょう。使用する場合は温水洗浄便座の設定温度を低めに設定しましょう。

●使わないときは温水洗浄便座のフタを閉めましょう。

○洗濯で節電!

洗濯機...●洗濯は、お風呂の残り湯を利用し、まとめ洗いで洗濯回数を減らす工夫を。

乾燥機...●衣類乾燥機や洗濯機の乾燥機能の使用をできるだけ控えましょう。

○お風呂・洗面所で節電!

●お風呂の自動保温をできるだけ止めましょう。

●送水にも電気を使用するため、蛇口をこまめに閉めたり、シャワーの時間を少しでも短くする努力を。



○生活スタイルを見直して節電!

早寝早起きのライフスタイル（朝チャレ!）で節電!

●早寝早起きは、夜の消費電力を抑えることになり節電につながります。早寝早起きの健康的な生活スタイル（朝チャレ!）を実践しましょう。



一家団らんで仲良く節電!

●食事や団らんの時などは、家族みんなで一つの部屋に集まりましょう。できるだけ一か所生活することで照明やエアコンなどの節電につながります。

○エコクッキングで省エネ

●水滴を拭いてから火にかけよう

●炎がはみださない火加減で調理しよう

●鍋にはふたをしよう

●下ごしらえを工夫しよう



センター事業紹介

出前講座

温暖化防止に関する勉強会や研修会に温暖化防止活動推進員さんを講師として派遣する出前講座を行っています。
人形劇など使って分かりやすいプログラムで平成23年度は105講座行いました。



啓発

県内各地の環境イベントで、温暖化の基礎知識や、省エネ器具の体感など気付きを中心に啓発しています。
平成23年度は、51カ所で行いました。



電動アシスト自転車促進

企業・団体・行政で構成するコンソーシアムを立ち上げ、通勤や業務に、車利用から電動アシスト自転車に転換を促し、二酸化炭素の削減を図る試行実験を行いました。

20台の電動アシスト自転車貸し出しにより二酸化炭素が2,230kg削減されました。



滋賀県地球温暖化防止活動推進センターでは地球温暖化防止活動推進員の方々とともに、県民の皆さんに温暖化防止に関する行動につながる普及啓発活動を行なっています。

財団事業紹介

ヨシ製品のご案内

淡海環境保全財団では、冬場に刈り取られたヨシを有効利用するため、ヨシ製品を製造販売しております、ぜひご利用ください。

ヨシ腐葉土

ヨシを醗酵させて作った腐葉土です。以前から菊を育てている方に好評です。
通気性や排水性が良く、根腐れし難いといわれています。
ホームセンター等で販売しています。



ヨシ紙製品

ヨシを原料に作った紙で出来た商品です。A4サイズの使用紙はもちろん、絵葉書や名刺・筆箋・葉等も販売しています。



ヨシ刈取り事業

冬季に琵琶湖岸のヨシの刈取りを行い、翌年以降のヨシの生育を促す事業を行なっています。平成23年度は、大津市小野等8カ所で行いました。また、ヨシ刈りボランティアによる、ヨシ刈りイベントの支援を行っています。



ヨシ群落保全事業

ヨシ群落を保全するために、湖岸に砂が溜まり、ヨシを生えやすくする突堤の整備を行なっています。平成23年度は、彦根市新海町湖岸の突堤を整備し、野洲市菖蒲湖岸の突堤整備のための調査を行いました。



水草刈取り事業

夏から秋にかけて、航路障害や臭いの原因となる水草を様々な手法で南湖を中心に刈取り、刈り取り後の水草を堆肥化しています。平成23年度は、湖岸近くを人手での集藻や専用船の刈取りも行いましたが、漁船を使った刈取りを多く行いました。

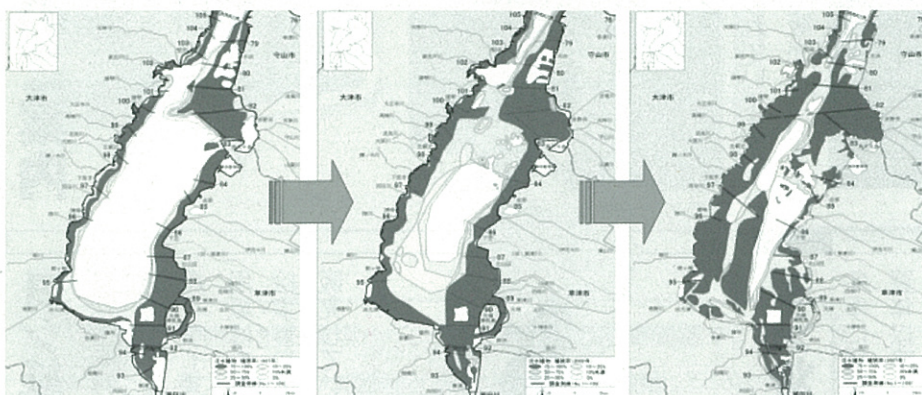


1 ●琵琶湖の水草について

平成6年の大湖水以降、南湖における水草の増加が著しく、夏になると湖底の約9割(45km²)を水草が覆う状況になっています。このため、湖流の停滞、湖底の泥化の進行、溶存酸素濃度の低下など、自然環境や生態系に深刻な影響を与えています。また、漁業や船舶航行の障害、腐敗に伴う悪臭の発生など生活環境にも悪影響を与えています。

●水草繁茂状況の推移

(独)水資源機構調査

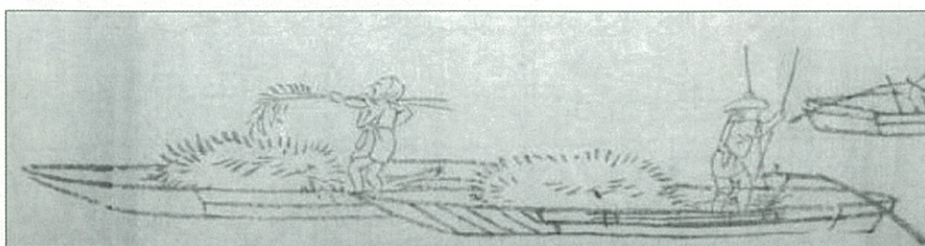


2 ●水草の有効活用について

農家では、かつて田んぼや畑の肥料として、水草を大量に採っていました。この水草を採る権利をめぐる争いも起きるほどでしたが、近年になって、生活様式の変化や化学肥料の普及などから、これまでのような活用がされなくなりました。

水草の刈り取りは、琵琶湖の生態系の保全・再生や良好な生活環境を保つためにとても大切なことです。また、自然に優しい生活が求められるようになった現在において、刈り取った水草を資源として利用することは、環境に負荷を与えず、自然の循環を促進する上で大きな意義があるとともに、薄れてしまった人の暮らしと琵琶湖のつながりを取り戻す重要な取り組みでもあるのです。

そこで、滋賀県では、刈り取った水草の堆肥化や農地の肥料としての有効利用を進めています。



江戸時代の藻刈船 琵琶湖眺望真景図(大津市歴史博物館蔵)

琵琶湖の水草の 資源循環について

マザーレイク21計画
暮らしと湖の
関わりの再生

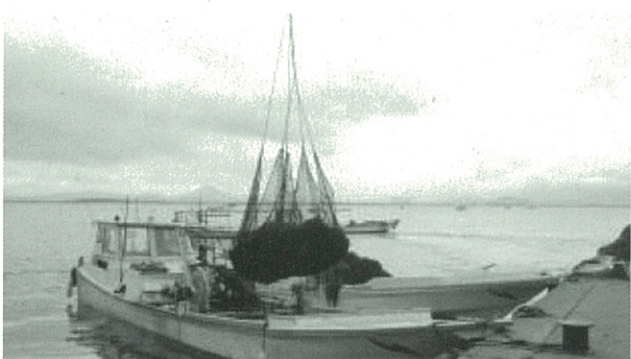
水草刈り取りから堆肥化実証試験まで



① 水面近くの水草は、専用の刈り取り船（手前・げんごろう、奥・スーパーかいづりⅡ）で刈り取り



② 水草の根こそぎ除去は、貝曳き漁具の「マンガン」を使って刈り取り



③ 刈り取った水草を陸揚げ



④ 水草を堆肥化



⑤ 実証試験地の耕耘



⑥ 実証試験地への作付け



⑦ 立派なサツマイモに成長

水草堆肥の効果を把握するための試験を実施していただけるモニターを募集します。
ご希望の方は淡海環境保全財団までご連絡ください。

平成24年4月1日から 公益財団法人になりました。

「ヨシ群落の保全」、「環境保全・自然保護」、「地球温暖化防止」、「環境情報の発信」等の公益性の高い事業の実施と、より一層、自主・自立の財団運営を進めて参りますので今後ともご支援をお願いします。

●財団へのご寄附について

淡海環境保全財団では、琵琶湖の環境保全事業等を進めるための寄附金を募集しています。

様式等詳しくは、ホームページの寄附要領をご覧ください。

●賛助会員募集中

琵琶湖の保全、地球温暖化防止活動の支援等に取り組んでいる当財団の活動趣旨にご賛同いただき、ご支援いただける「賛助会員」を募集しています。

応募方法等詳しくは、ホームページの賛助会員募集のページをご覧ください。